

大阪北河内地域 地域活性化プラン

平成26年4月改訂
(平成19年7月策定)

大阪北河内地域活性化推進協議会
(事務局：北大阪商工会議所)

1. 北河内地域における地域活性化の目標・方向性

1-1 北河内地域における地域産業の現状と課題

北河内地域七市（枚方市、寝屋川市、交野市、守口市、門真市、大東市、四條畷市）の総人口は、約118万人であり、大阪府下人口の約13.3%を占める。当地域は、多くの大学やさまざまな産業集積と豊かな自然、文化、歴史などを有している。

当地域の産業についてみると、全産業を対象とした平成18年事業所統計によれば、事業所数では府下8地域中4位にあり、①「卸売業・小売業」、②「サービス業（他に分類されないもの）」、③「飲食店・宿泊業」が上位3位を占め、従業者数では大阪市地域に次ぎ2位を占め、①「製造業」、②「卸売・小売業」、③「医療・福祉」となっている。事業所数の推移を見ると、平成13年から18年にかけて10.8%減、従業者数でも7.5%の減となっている。当地域は大手家電メーカーやその関連企業・取引先企業が多く集積しており、電気・情報通信関連に強みを有しているが、近年大手家電メーカー工場の海外移転の加速化により、地域の中小製造業の経営環境は厳しくなってきたことが浮き彫りにされている。また、南河内地域ブロックと並んで従業者数に占める「医療・福祉」の割合が高くなっているのは、住宅都市としての地域の性格に加えて、大型病院の立地や新たな開業が影響しているものと考えられる。

当地域には多くの工業団地が所在していることも特徴のひとつであるが、中でも新たな産業集積地として、関西文化学術研究都市の一翼を担う地域が整備され、すでに多くの中堅メーカーが商品研究開発施設を構え、今後、研究・開発型企業の産業拠点として将来が期待されている。

また、環境保全意識も高く、独自技術を保有している企業が多く存在し、当地域内には拠点を置く大学、工業高専等との産学官連携による活動も活発化してきており、既に進みだしているプロジェクトも存在している。更に、ベンチャー、ITビジネス、SB・CB等の起業化支援や、専門的な経験を活かした産業支援のシニア集団などの企業OB人材の活動も活発であり、これらの新たな取り組みによる新たな地域産業の創出が期待されているところである。加えて、京都市内から門真市までを結ぶ第二京阪道路（環境・景観に配慮、愛称は「緑立つ道」）が全線開通し、大阪府内での産業用地としての注目が一層高まることが期待されている。

伝統産業については、かつて北生駒山系の豊かな自然環境が、都市近郊レクリエーションの場として観光農園（いちご狩り・ぶどう狩り・いも掘りなど）など多くの人々を魅了するとともに、湧き水などを使った伝統的な職人技による産業（地酒など）を育てたが、これらの産業は、現在、後継者不足等により、独立専業が困難な状況に直面しているのが現状であり、これら伝統産業の復興が課題となっている。また、商業についても、商業集積がやや低いことから市外への購買力の流出（小売吸引力の低下）、商店街の活力低下が見られ、市街地としての機能の再生、潤いと賑わいを生み出すまちづくりが当地域共通の課題とされるところである。

1-2 新たな地域産業創出の必要性と可能性

このような地域産業の現状から、北河内地域における新たな地域産業創出の必要性として、以下の点が挙げられる。

【北河内地域 新たな地域産業創出の必要性】

- 厳しいコスト競争を耐えてきた電気・情報通信や一般機械・金属製品・電気機械の加工組み立て業種は、今なお地域産業の基盤であり牽引役である。今後の地域活性化に向けては、これら産業の基盤技術の高度化、ニッチ市場で特化する研究開発、市場で高く評価される製品開発に取り組む中小事業者の創意・意欲を積極的に活かすとともに、多様な人材を有する地域の特性や潜在的な地域資源を広く活かした、新たな産業の創出が必要であり、これらを北河内地域ブランドとして構築、育成していくことが求められる。

また、北河内地域に立地する研究機関・大学や、地域の個性・特性から、北河内地域における新たな地域産業創出にあたって、以下の可能性が見られる。

【北河内地域 新たな地域産業創出の可能性】

- 異業種交流や産官学の連携
地域内に拠点を置く大学、工業高専、その他研究機関等の広い分野の知的資源がある。その資源活用を希望する産業側の受入体制も整備されつつあり、異業種交流や産学官連携のより一層の活性化が期待される。
- 人的資源の活用
大手企業の立地も多く、専門的・技術的職業へ従事していた企業OB人材が豊富であり、中小企業やNPO等において、その経験を活かした活躍も期待される。また、住宅都市であることからキャリアを持ちながら退職した女性も多い。
- 新しい衣食住サービス事業の創出
大阪都心部に近いなどの要件を備えた高水準の住宅街であり、環境関連等、生活に関連の深い産業・サービスの創出地・消費地としても期待される。
- 自然環境を活かした地域おこし
自然環境に恵まれ、史跡や文化財が豊富で、観光集客事業を大きく伸ばし得る素地がある。また、取り組み方如何によっては、伝統的な農産物資源を蘇らせるとともに、地域おこしに直結する新たな特産物の開発も期待される。
- ベンチャー人材による起業の促進
産業と情報の集積地である大阪・京都の中核部へのアクセスが容易であり、職・住の環境整備による都市型産業（ソフト系IT・デザイン・設計・試作など）起業の場として、ベンチャー精神に富む人材を引き込むことが期待される。

1-3 北河内地域の特性・地域資源

北河内地域の特性と地域資源について、以下の通り概観した。

【北河内地域の特性と地域資源 概観】

- 各工業団地、津田サイエンスヒルズが整備されており、企業規模も比較的大きい。大手企業工場や技術力の高い中堅企業等が立地。第二京阪道路により、産業用地としての注目が高まることも期待される。
- 大手家電メーカーの城下町として、電気機械器具製造業、情報通信機械器具製造業など付加価値の高い産業が集積しており、北河内南部地域の大きな特徴となっている。
- 大阪都心部に近い高水準な住宅地であり、大手企業勤務者が多く在住してきたことから、企業OB人材によるNPO法人活動が全国に先駆けて行われており、今後、一層の活躍が期待される。
- 地域内に拠点を置く大学、工業高専、ビジネスインキュベータ等による産学官連携推進、商工会議所・商工会を中心とする異業種交流会に積極的に取り組んでいる。
- 地場産業としては「金網製造」（四條畷市）、「丸編ニット」（守口市）などが挙げられる。農林水産資源としては、「守口大根」「門真蓮根」「生駒山系湧水」などが挙げられる。
- 観光文化資源としては大東の「野崎観音」や四條畷の「四條畷八景」、枚方、交野には天の川や機物神社、牽牛石など七夕伝説にまつわる地名や史跡が多く七夕伝説発祥の地とされている。「天の川七夕フェスタ（枚方市）」「天の川七夕まつり（交野市）」は、当地域外からの来訪者も多く集客力の高い観光事業として可能性を秘めている。そうめんや地酒などの伝統産業もみられる。今なお京料理の老舗から珍重されている河内そうめんは、内陸部の気候や湧き水、さらには、職人の伝統技に負うところが大きい。また、この良質な湧き水から醸成された交野の地酒は、大阪商人に広くたしなまれた。
- 安全で環境に優しい農産物の地産地消に向けて設立されている「エコ農産物推進協議会」が北河内北部地域に設置されている。今なお、近郊農家が農業経営を継続しており、農業技術が継承されていく可能性が高い。
- 地域と行政の連携による枚方宿のまちづくり、地域通貨などでコミュニティの活性化に取り組むNPO団体など、地域活動への市民の参加意欲が高く、福祉関連コミュニティビジネスに取り組む中高年者なども多い。創業への関心も高く、創業セミナーや事業プラン検討会では、熱心な討議が繰り広げられている。実際に住民サービス事業を開始し、地域住人に喜ばれている事例も多い。
- 北生駒山系は自然が豊かであり、四季折々の景観は多くの人々を引き付ける。観光施設も充実・整備されており、観光と健康をキーワードに自然を活かした産業創出の可能性を秘めている。
- ラグビーの強豪校が多く、枚方市のラグビーカーニバルはスポーツイベントとして、市民やラグビーファンの来場が多い。観光・健康・スポーツ産業展開の可能性が大いに期待される。
- 棚田が広がり、周りを山で囲まれた穂谷の里山は全国の里山モデル調査地として選ばれている。里山調査員から唯一「宝物になる可能性がある」と評され、市民・児童のやすらぎや自然教育の場として、広く集客が期待される。
- 工業高等専門学校でのロボット大会での優勝、大阪電通大学でのロボットイベントの開催、また、ロボットに寄せる市民・大学・企業の関心と蓄積された技術力がある。生活支援ロボット等への開発・研究の意欲は高い。さらに、当地域内には著名なからくり人形復元師が在住しており、その技能がロボット産業に活かされる可能性も期待される。
- 寝屋川市の大葉はすでに40年の根気よい栽培改良の歴史があり、その形、色、風味において日本一であるとの定評も得ている。大葉は咳、痰と言った症状の緩和や健胃作用

があると言われており、健康を創る食材とされている。大葉そば、大葉ゼリー、しそ懐石は郷土の料理として市民も親しまれている。

北河内地域資源の状況

分類	個別地域資源
産業技術資源 産業集積資源	<ul style="list-style-type: none"> ●工業系大学や府立工業高等専門学校、これらとの連携実績 ●各工業団地及び津田サイエンスヒルズ地区 ●企業OB等の技術・技能・人脈を持ったシニア集団 ●ものづくり産業の集積（門真市、守口市、大東市） ●金網製造（四條畷市） ●産官学交流による「からくり人形」の制作、「介護用昇降機」の試作
農産物資源	<ul style="list-style-type: none"> ●河内そうめん（枚方市） ●地酒・清酒 ●大葉（青じそ）（寝屋川市） ●ぶどう、みかん、いちご、はちみつなどの農産物（交野市等） ●菊人形みそ（枚方市） ●銘菓 ●畜産団地（枚方市） ●エコ農産物推進協議会（大阪府内7市設置） ●生駒山系の湧き水（ミネラルウォーター、地ビール開発を進行中、四條畷市、異業種交流会） ●守口大根（守口市） ●門真レンコン（門真市）
観光文化資源	<ul style="list-style-type: none"> ●東海道五十七次枚方宿、くらわんか舟等の淀川関連の歴史資源（枚方市） ●淀川・天の川水系、山の湧き水等の水資源（交野市等） ●府民の森（ほしだ園地、くろんど園地）、傍示の里・石仏の道等のハイキングコース（交野市等） ●穂谷の里山、交野山の里（枚方市等） ●成田山不動尊、百済王神社、百済寺跡獅子窟寺 国宝薬師仏、継体天皇樟葉宮跡伝承地等の歴史文化資源 ●牧野の桜、国見山の展望、万年寺山等の景観資源（枚方市等） ●鉢かづき姫の寓話（マスコットキャラクター等に活用中）（寝屋川市） ●阿弋流為・母禮（アテルイ・モレ）の伝承（枚方市） ●七夕伝説・天の川七夕フェスタ（枚方市）・天の川七夕まつり（交野市） ●歌枕交野等の文化資源（交野市） ●菊人形などの菊文化、ひらかたパーク（枚方市） ●寝屋川の文化と歴史の道（寝屋川市） ●王仁博士の墓（枚方市） ●からくり人形の復元（寝屋川市） ●四條畷神社・楠公まつり（四條畷市） ●四條畷八景・ハイキングコース（四條畷市） ●野崎観音・野崎参り（大東市） ●守口宿（守口市）

産業振興拠点、 人材他	<ul style="list-style-type: none"> ●枚方市立地域活性化支援センター ●寝屋川市立産業振興センター ●だいたう産業活性化センター（大東市） ●コミュニティビジネス創業支援のNPO団体 ●地域通貨による地域活性化への取り組み
----------------	---

（平成 18 年度『地域資源現況調査事業報告書』により把握した地域資源を含む。）

1-4 地域の活性化の目標・方向性

北河内地域の特性と産業資源を踏まえて、地域資源を活かした新たな産業を創出に関する方向性として、以下を取り上げる。

【北河内地域活性化の目標・方向性】

ものづくり技術や産学官連携、地域人材による地域活性化と

歴史文化・農産物資源を活かした新たな地域産業づくり

- 北河内地域には、独自技術を有するものづくり産業、先端的技術シーズを有する大学と、新事業進出を企図する中小事業者、さらにそれらを支援する専門サポート集団が存在する。産学官連携や異業種交流、中小事業者間の仲介・連携により新事業創出を加速し、地域活力の一層の強化を図る。あわせて、歴史文化資源を活かした都市型観光事業、農産物資源を活かした地域ブランドの特産品開発を重点的に推し進める。

2. 地域資源を活かした新しい事業の創出方策

2-1 地域資源の活用イメージ

地域の特性や地理的条件、ものづくり産業集積、豊富な産業資源や活用可能性が期待される地域の大学・高専の立地状況、あるいは産業支援シニア集団の存在等から、北河内地域における地域資源の活用イメージとして、以下を挙げる。なお、これらは平成22年度時点での地域資源活用のイメージであり、今後、産業資源の発掘状況によって、おのずと変化していく性質のものである。

【北河内地域 地域資源活用事業のイメージ】

- ①ものづくり技術や地域の産学官連携による事業（大学、工業高等専門学校等との連携による新製品開発等）
- ②地場産業の技術・製品を活用した新製品開発等の事業
- ③歴史観光文化資源を活用したものづくりやまちづくりに関連する新たな事業（歴史文化資源を活かした観光開発等）
- ④地域の農産物資源を活用した新たな事業（地産地消への取り組み、工コ農産物、地場新名産品の開発等）
- ⑤地域の資源(人材)活用した新たな中小事業者の応援・育成の事業（企業OB、専門家集団等による支援事業等）
- ⑥上記の組み合わせにより、地域ブランド力の形成を図る事業

2-2 重点的に支援すべき事業分野

平成18年度調査『地域資源現況調査事業』や、ヒアリング等で明らかになった地域資源に基づき、1-4に記載した地域活性化の目標・方向性、今後の地域ブランド形成に資すると見られる代表的な地域資源を、重点的に支援すべき地域資源として、以下を抽出した。また、これら資源の担い手、支援者として期待される資源、今後の発掘や活用が期待される地域資源も併せて抽出・記載した。

なお、これらも先に挙げた地域資源活用イメージと同様に、今後、産業資源の発掘状況によっておのずと変化していく性質のものである。

【北河内地域 重点的に支援すべき地域資源等】

分類	地域資源など	
重点的に支援すべき代表的地域資源	産業技術資源分野	ものづくり技術、金網製造技術、産学官連携等
	歴史観光文化資源分野	枚方宿、七夕伝説と史跡、里山、鉢かづき姫の寓話、府民の森、神社・仏閣及び周辺地域の自然、歴史的町並み等
	農産物分野	生駒山系の湧き水、地酒、そうめん、大葉、いちご、はちみつ、ぶどう、大根、れんこん、有機野菜等

<p>担い手として期待される地域資源</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・異業種企業グループ ・技術力・専門性の高い中堅・中小企業 ・独自性の高い中堅・中小企業 ・自社独自の技術をもとに第2創業や新事業展開を目指す中小企業等 ・地域に拠点を置く大学（工業、情報科学、医歯薬、外国語・国際）および工業高等専門学校 ・大学発ベンチャー ・事業協同組合 ・産業支援のシニアグループ ・地元まちづくりNPO ・地元の農家、森林・里山保全NPO
<p>支援側として期待される地域資源</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所、商工会、市役所、農業協同組合、観光協会 ・地元の歴史家、特別な技能伝承者 ・枚方市立地域活性化支援センター ・寝屋川市立産業振興センター ・だいたう産業活性化センター ・各市工業会 ・商店会および上部連合組織
<p>今後の発掘や活用が期待される地域資源</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各工業団地の産業集積を利用・再開発の新事業 ・津田サイエンスヒルズに集結する技術資源の活用 ・ラグビー強豪校と地元との連携事業（ラグビーカーニバル） ・里山保全と観光活用 ・7大学等の知的資産を活用した企業の新製品開発 ・淀川水系の水資源を活用した観光等の開発 ・新たなものづくり企業の発掘 ・（担い手、支援側としての）企業OB人材 ・農林水産資源や観光文化資源の発掘

2-3 事業創出に向けた具体的方策

北河内地域では、後述する地域活性化推進協議会を中心に、地域資源を活用した新事業創出に向けて、主に以下の方策等によって取り組むものとする。

- 地域資源活用産業や北河内地域の地域資源に関連する広報普及活動
- おおさか地域創造ファンドや国の制度等に関する説明会開催
- マーケティングや地域ブランドの専門家等によるセミナー・相談会開催
- 地域活性化コーディネーター等による地域資源、担い手等の調査
- 地域の大学との産学官連携促進に向けたニーズ・シーズマッチングの促進 等

3. 地域活性化の推進体制の構築

3-1 地域活性化推進協議会の設置・運営

北河内地域では、これまで北大阪地域と北河内地域の2つの地域において、各々の地域活性化推進協議会を平成19年5月28日に設置し、ファンド助成対象事業の選定及び支援の実施主体としてきた。このたび両地域が統合し、関係自治体、商工会、商工会議所、学識経験者、日本政策金融公庫守口支店を構成員とする「大阪北河内地域活性化推進協議会」を平成23年4月1日に設置し、ファンド助成対象事業の選定及び支援の実施主体とすることとした。

同協議会は、北大阪商工会議所が事務局を担い運営にあたるものとし、同商工会議所に地域活性化コーディネーターを配置し、地域活性化プランの推進をはじめ、ファンド事業全般を推進する専門人材として位置付け、これらの業務にあたるものとする。

【大阪北河内地域活性化推進協議会 構成メンバー】

- ・枚方市 北大阪商工会議所
- ・寝屋川市、同上
- ・交野市、同上
- ・守口市、守口門真商工会議所
- ・門真市、同上
- ・大東市、大東商工会議所
- ・四條畷市、四條畷市商工会
- ・日本政策金融公庫守口支店

【大阪北河内地域活性化推進協議会 事務局】

- ・ 北大阪商工会議所

また、助成対象事業の選定は公募によるものとし、選定に際しては、外部有識者等で構成する助成事業選定委員会を設置するものとする。

【大阪北河内地域助成事業選定委員会 構成メンバー】

- ・ 公認会計士
- ・ 中小企業支援機関技術アドバイザー
- ・ 金融機関支店長
- ・ 北大阪商工会議所

3-2 支援機関・関係団体の役割

ファンド事業を効果的に推進し、地域活性化に資するため、「大阪北河内地域活性化推進協議会」を構成する支援機関・関係団体・構成員のみならず、大阪府・市町村・商工会・商工会議所・府立産業技術総合研究所、府立産業開発研究所、金融機関、公益財団法人大阪産業振興機構等の機関・団体、関係職員の知識・経験・技術・ノウハウを結集して推進していくものとする。

【北河内地域において、特に連携を期待する関係機関等】

- ・ 摂南大学 地域連携センター
(主に産業資源開発に関する研究開発面の指導、産学連携 等)
- ・ 大阪工業大学 情報科学部
(主に情報通信技術に関する研究開発面の指導、産学連携 等)

- ・大阪電気通信大学 研究支援室
（主に産業資源開発に関する研究開発面の指導、産学連携 等）
- ・大阪府立工業高等専門学校 産学交流室
（主に産業資源開発に関する研究開発面の指導、産学連携 等）
- ・だいたう産業活性化センター
（産学連携、異業種交流の推進）
- ・大阪産業大学
（ものづくりに関する研究開発面の指導、産学連携）
- ・地元歴史家グループ等
（主に観光文化資源に関する発掘支援 等）

4. 助成対象事業の選定・支援

下記 4-1～3 の内容については、大阪北河内地域支援事業助成金交付要綱による。

- 4-1 助成対象事業の要件
- 4-2 助成限度額、助成率
- 4-3 事業選定方法(選定基準、選定委員会等)

5. 事業目標の設定と評価

5-1 事業目標の設定

(1) 事業目標

おおさか地域創造ファンドによる支援事業計画に掲げる事業成果に係る目標に準じて、事業実施期間（10年間）終了後の成果目標として、おおむね以下の通り設定する。

- ①支援事業（プロジェクト）件数
おおむね 40 から 50 件（単年度あたり 4～5 件）
- ②支援事業（プロジェクト）の参加企業数
おおむね 80～100 社（単年度あたり 8～10 社）
- ③支援事業のうち中小企業新事業活動促進法に基づく経営革新計画の承認を得た数
おおむね 20～30 件（単年度あたり 2～3 件）

5-2 事業評価の方法と体制

上記事業目標の達成状況については、「大阪北河内地域活性化推進協議会」において評価を行うとともに、公益財団法人大阪産業振興機構に設置する「ファンド事業審査委員会」において、毎年度、評価を受けるものとする。

【改訂等履歴】

平成19年7月策定

平成20年3月改訂

平成20年6月改訂

平成21年1月改訂

平成23年3月改訂

平成24年3月改訂

平成26年3月改訂

財団法人大阪産業振興機構⇒公益財団法人大阪産業振興機構

摂南大学⇒削除

摂南大学教授⇒削除